

本所消防防災マガジン

～高めよう 確かな知識と みんなの意識～



HONJO
vol, 212号

令和3年1月号

地震に備えよう!

1月17日 ボランティアの日 1月15～21日 ボランティア週間

《「防災とボランティア週間」について》

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を契機に創設された「防災とボランティア週間」は、災害時におけるボランティア活動や自主的な防災活動の認識を深めるとともに、災害への備えの充実・強化を図ることを目的としています。

なお、阪神・淡路大震災が発生した1月17日が「防災とボランティアの日」、1月15日から1月21日までが「防災とボランティア週間」と定められています。

まもなく、阪神・淡路大震災から26年、東日本大震災から10年が経過します。過去の災害の記憶を風化させず、今後、発生が懸念されている首都直下地震等に備え一人一人が防災に関する意識を高め、災害への備えを充実させていきましょう。



《東京消防庁災害時支援ボランティア活動》

東京消防庁災害時支援ボランティアは、東京消防庁管轄区域内で震度6弱以上の地震や大規模な自然災害、大規模な事故が発生した際に、あらかじめ登録している消防署や最寄りの消防署に自主的に参集し、消防署の支援を行います。



災害時の活動では、消防署内での様々な後方支援活動や応急救護活動など、消防署からの支援要請に応じて活動を行います。

一方、平常時の活動では、各種育成講習や各消防署で実施する訓練等に参加して、震災時に活動するために必要な知識・技術の向上を図り、都民指導に活かしています。

ボランティア活動に興味のある方は、ぜひ消防署までお問い合わせください。

本所消防署災害状況
(令和2年12月31日現在)

火災48件 焼損床面積151㎡
救助302件 救急8870件

お問合せは

警防課防災安全係 地域防災担当

電話 3622-0119 (内線323)

詳しくはホームページへ

東京消防庁 HP www.tfd.metro.tokyo.jp

署 HP www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-honjyo/index.html

【参考】

《ボランティアが高まりをみせた契機～ボランティア元年～》

災害時のボランティア活動が注目されたのは、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災でした。

阪神・淡路大震災発生後、国内外から多数のボランティアが駆けつけ、被災地のニーズに対応する多種多様な活動が行われ、共助による防災活動の原点となりました。後には「ボランティア元年」と呼ばれ、今日における災害時等のボランティア活動の先駆けとなりました。多岐にわたる活動を行ったボランティアの数は、兵庫県の調査によると地震発生日から4月18日までの3か月間で、延べ117万人にのぼり、復旧活動を迅速かつ的確に実施していくうえで重要な役割を果たすこととなりました。



※ 阪神・淡路大震災

平成7年1月17日火曜日、5時46分、兵庫県南部でマグニチュード7.3の直下型地震が発生し、多くの命が奪われました。

阪神・淡路大震災の被害は、兵庫県を中心に大阪府、京都府など2府14県に及び、人的被害は、死者6,434人、行方不明者3人、負傷者43,792人という甚大なものとなりました。建物の被害は、住家の全壊104,906棟、半壊144,274棟、一部破損390,506棟、合計639,686棟にのぼり、また住家以外の公共建物1,579棟、その他40,917棟が被害を受け、293件の火災が発生しました（総務省消防庁調べ）。この地震による避難者はピーク時で約32万人に及びました。